

平成29年度第1回防府市総合教育会議議事録

1 開催日時 平成29年5月23日(火曜日) 午後2時

2 開催場所 防府市役所1号館3階第1会議室

3 出席者

防府市長 松浦正人

防府市教育委員会

委員長 小松宗介

委員 清水智恵子

委員 鈴木隆子

委員 村田敦

教育長 杉山一茂

4 説明のために出席した者

総合政策部長 熊野博之

総合政策課長 亀井幸一

総合政策課主幹 齊藤忍

市民活動推進課長 森川智子

建築課長 堀田和彦

学校教育課長 時乗順一郎

学校教育課教育指導係長 河村直子

学校教育課指導主事 河野貴男

学校教育課指導主事 神田橋芳幸

5 会議に従事した職員

教育部長 原田みゆき

教育部次長 河田和彦

教育総務課長 原田一幸

教育総務課長補佐 片山裕美

午後2時開会

○教育部長 定刻となりましたので、ただいまから平成29年度第1回防府市総合教育会議を開催いたします。

初めに、防府市長から御挨拶をお願いいたします。

○市長 皆様、こんにちは。大変お忙しい中、こうして御出席をいただきまして、今年度の第1回目となります総合教育会議開催の運びとなりましたことに、まずもって御礼を申し上げます。

また、平素から本市の教育推進に多大なお力添えをいただいておりますことに、改めて、心から御礼申し上げる次第でございます。

この総合教育会議なるものは、私が呼びかけという形になっております。本日は、地方創生は、教育再生からという視点の中で、皆様方の御意見をお伺いさせていただければ、大変ありがたいなど、かように思っている次第でございます。

今、国では、地方創生ということで、全国の基礎自治体がそれぞれの特異性を発揮しながら、地方創生に取り組んでいるわけですが、私は、教育という視点から、地方の創生を図っていききたい、そういう強い思いを抱いているところでございまして、既に、随分前から教育委員会の先生方の多大な御協力をいただき、東の端にある富海エリアの教育の充実と振興にいろいろな角度からお力添えをいただいているわけでございます。

そうした中で、富海には、藍染め作家で世界的に名を馳せておられる飴村秀子先生が御在住で作品を作り続けておられるわけでございますので、藍染めのブルー、富海ブルーでございます。

富海ブルーと英語教育、これは、本市がもう10年以上前から富海小学校で力を入れて取り組んでいることでございます。その英語教育等によって、更に地域の交流あるいは移住定住等々につなげていきたいというようなことで、富海小・中学校は市内どこからでも就学することができる形で取り組んでいる地域でございます。

それらを考えながら、本日の議題を御提示させていただいた次第でございます。限られた時間ではございますが、委員の先生方から、いろいろな角度からの御意見を頂戴できれば、大変ありがたいと感じている次第でございます。御協力のほどお願い申し上げまして、冒頭の御挨拶いたします。

○教育部長 ありがとうございます。

それでは、議事に入ります。議長につきましては、防府市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、市長をお願いいたします。

○市長 それでは、本日の議題であります「富海ブルーと英語教育が織りなす交流・移住・定住空間の創造事業について」を議題として、上程させていただきたいと思っております。

まず、総合政策課から、全体の説明をお願いします。

○総合政策課主幹 総合政策課の齊藤と申します。よろしくお願いいたします。座って説明をさせていただきます。

私からは、本事業のまちづくり全体における位置付けということで、各課の取り組みの前に少し御説明をさせていただきます。

資料の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、50年後の人口の将来展望を見越した人口減少の克服と地域創生の実現のための最初の5か年戦略として、平成27年10月に策定したものでございます。

この総合戦略では、基本目標の一つに、「元気な地域をつくる」ことを掲げておりまして、この元気な地域をつくるため、コンパクトなまちづくりを進めることとしております。これは、防府駅を中心とする中心市街地の活性化とともに、各地域では、学校を拠点とした特色ある地域づくりを行い、中心部とそれぞれの地域を結ぶ交通ネットワークを形成しようとするものでございます。

資料に記載しているこの事業は、学校を核とした地域づくりのモデル的な取り組みとしまして、国の地方創生の交付金の認定をいただき、10年前から取り組んでいるこの富海の取り組みをさらに加速化させるために、総合的に推進しているものでございます。

富海地域の課題の一つに、人口減少・児童生徒数の減少がございまして、人口減少につきましては、富海地域が防府市に編入された昭和29年と比べると半減しており、児童生徒数の減少については、8割から9割の減少となっており、少子化、人口減少が進んでいるということがわかっております。

この中で、児童生徒数については、平成28年、そして平成29年と数字が上向ってきております。これにつきましては、28年度から加速させたこの事業の取り組みが少しずつあらわれてきている成果ではないかと考えております。

次に、配付資料の赤い部分と、緑の部分に当たりますが、この富海地域の活性化事業のコアとなる考え方を示したものでございます。地域創生の鍵は、長期的に見れば、人づくり、人が仕事をつくり、まちをつくる、その人を育む教育、先ほど市長が申し上げましたとおり、地域創生のエンジンの役割を教育が担っておると考えております。そのため、時代を担う子供を育む、学校を核とした地域づくりを推進していく、これが大変重要であると考えております。

これを展開するに当たりまして、教育の再生と人口定住の促進は、地域創生の第一歩となると、具体的には、資料の真ん中のところでございますが、地域の豊かな環境に結びついた特色ある教育の展開に、この学校教育とあわせた教育再生のための住宅面からの若い世代への暮らしの提案、これが人口流出を防ぐだけでなく、人口流入も喚起し得る取り組みになると考えております。

このため、富海地域では、英語教育を充実させ、また同一敷地内にあるという利点を生かした小中一貫教育推進及び家庭内教育の向上を図るための市有三世代住宅の整備を一体的に進めているところでございます。

更に、民の取り組みということで、藍染めを中心に、地域資源を生かした、地域の自主的・自立的な取り組みを支援しまして、地域で稼ぐ力を創出し、地域に根差した雇用の創出につなげていく、そして、この取り組みがコミュニティ・スクール、地域協力力として、学校教育と連携していくことで、学校の魅力がさらに高まり、地域の魅力も高まり、富海の活力創生につなげていきたいというものでございます。

平成28年度から取り組みを加速させております学校を核とした本事業につきまして、各政策の連携を今後も図りながら、本市におけるモデル的な取り組みとなるよう、更に取り組みを深めていきたいと考えております。

昨日、今日の2日にわたり、小学生による藍の植えつけが行われたという話を聞いております。こうした連携をさらに深め、教育による地域再生の取り組みを進めていきたいというものでございます。

以上、全体的な御説明でございました。

○市長 次に学校教育課に説明をお願いします。

○学校教育課長 それでは、富海小・中学校の教育について、御説明させていただきます。

富海地域の活性化のためにも、特色ある教育活動を展開するというところで、小中一貫並びに英語教育を柱に、他の小中学校のモデルとなるような形で平成21年度に取組がスタートいたしました。そのときから、小学校1年生からの外国語活動を始めております。

その後、研究開発学校、教育課程特例校等々の指定を受けながら、先ほど申しました、小中一貫並びに英語教育について、研究を進めてまいりました。

しかし、平成26年度の新中学1年生が1人という現状がございました。平成27年度からは、小規模特認校ということで、防府市内のどこからでも就学できる制度にいたしました。同時に、英語教育をさらに加速することとし、小学校5・6年生は、外国語活動を週2時間、中学校の外国語活動は週5時間実施し、あわせて、人的支援ということで、小中連携教育指導員や県の研究課題等もいただいて研究を進めております。

また、山口大学と連携してICTの研究、それから特色ある取組としてイングリッシュキャンプ等々、9年間を見通したカリキュラムづくりのほか、徳地少年自然の家と連携した人間関係づくりのプログラムであるとか、様々な取り組みを今進めているところでございます。

なお、富海小・中学校で学んでいる子供たちの学力については、市内でもトップクラスだと認識しているところでございます。

平成28年度には、さらに取組を加速するというこゝで、7月からALT（外国語指導助手）を富海小・中学校に常駐させております。また、平成27年度は1日だけだったイングリッシュキャンプを5日間連続して富海小・中学校で行いました。これは、後ほどDVDを見ていただきたいと思ひます。小中学校では行事等も合同実施してありまして、入学式も一緒に実施しました。

今後の見通しとしては、本年度、富海小中学校における教育課程特例校の制度が終わりますので、法的な整備をし、防府市立小中一貫教育校、富海小中学校という形に持っていきたいと考えています。教育課程についても研究を進め、今の6・3制ではなく、例えば、4・3・2制であるとか、そのあたりについても研究をしていきたいと思ひているところでございます。

人づくりが仕事づくりやまちづくりにつながるという視点もござひます。豊かな自然、温かい人の力で子供の可能性を最大限に伸ばし、そのことにより、ふるさとをさらに元気にしていくということで、家庭教育、社会教育、学校教育の3つの歯車をかみ合わせながら、そこで学びたくなる、特色ある小中一貫教育を展開し、地域とともにある学校づくりをさらに推進していく。そのことにより、地域が活性化し、それが地域創生につながっていく。地域でつくる、地域をつくる、住みたくなる地域をつくる。そういう思ひで、富海小中学校では教育活動を展開してあります。

なお、先ほど紹介がござひましたが、5月20日に地域おこし協力隊による藍染めの植え付けを富海小・中学校の児童生徒が体験してあります。藍染めだけではなく、藍の植え付けから取り組むことを現在行っています。

それでは、紹介しましたイングリッシュキャンプのDVDをご覧ください。

【DVD放映】

○市長 ありがとうございます。

それでは、次に、市有三世代住宅整備について建築課からの説明をお願いします。

○建築課長 それでは、市有三世代住宅の整備について、概要を御説明します。

地域創生の取り組みの一つといたしまして、特色ある教育を展開しておられます富海小・中学校への就学の支援といたしまして、三世代住宅を建設することにより、家庭内教育力の向上や子育て環境の整備による家族の絆の再生を図り、世代間で互いに支え合いながら、生活する多世代家族の形成による定住を促進するため、住宅の建設を予定してあります。

建設予定地は、富海小・中学校の南側で、徒歩1分のところにござひます。大変立地条件がよいところでござひます。

今後の予定といたしましては、随時、市広報やホームページなどでお知らせいたしますが、8月には、平面計画や完成イメージ図を掲載いたします。また、10月以降に建設工事に着手するとともに、入居申し込みの募集を開始し、平成30年3月から入居開始を予定しているところ

でございます。

以上、概略を御説明いたしました。

○市長 それでは、次に、地域資源を生かした活性化について、市民活動推進課から説明をお願いいたします。

○市民活動推進課長 それでは、地域創生のための取組の中の、地域資源を生かした活性化につきまして、説明をいたします。

この事業は、地域の住民が主体となった富海地域活性化協議会、地域で活動していらっしゃる自治会、社会福祉協議会、その他のボランティア団体、J A、小中学校等の団体の主要なメンバーの方が中心となって取り組みを進めていただいているものです。

富海地域では、人口減少、とりわけ少子化に対する危機感、また、耕作放棄地や空き家の増加に対する危機感を持たれ、組織を作って活性化に向けた取組を進めておられます。

地域創生のための取組でございますが、移住定住を進めるために、雇用の創出が必要であるとして、地域の資源を生かした観光事業や藍染めを一つの軸とした産業の創出などにも取り組む事業戦略を、平成28年度に策定していただいたところです。

この後、プロモーションビデオをご覧くださいますが、このプロモーションビデオにつきましても、この事業の中で、富海地域の魅力を発信するために制作されたものでございます。地域住民の皆様や小中学校児童生徒の皆さんが出演しておられます。また、ビデオには、地域おこし協力隊員が出演しておりますが、この地域おこし協力隊というのは、国の総務省の事業でございまして、全国的にも導入が進められているものでございます。

防府市では、藍を中心とした地域の活性化ということでの地域おこし協力隊の導入について地域から御要望いただいたことで、平成27年度から富海地域に導入し、いろいろな活動を進めているところでございます。

プロモーションビデオでは、移住してこられた方の視点という意味でも、地域の魅力を説明していただいています。

それでは、とのみ藍の郷づくりプロジェクトということで、プロモーションビデオをご覧ください。

【プロモーションビデオ放映】

今、ご覧いただきましたが、平成29年度はいろいろな歴史的資源や自然環境など、地域の特色、また藍染めの魅力を発展させていくということで、地域で法人を設立いたしまして、藍染めを初めとした地域資源を生かした産業や、地域のイベントを集約した観光事業の取り組みを行う予定にしております。

以上で、私の説明を終わります。

○市長 ありがとうございます。

以上で、総合政策課、学校教育課、建築課、市民活動推進課からの説明が終わりました。

若干補足をしたいと思いますが、私は、かねてから学校を廃校にしていくことのないように、極端な言い方ですが、1人でも子どもがいる限り、学校を廃校にしないという意気込みをそれぞれの自治体に持ってほしいと思っています。

ここ防府市におきましても、野島小中学校には地元から通っている子どもはおりません。しかし、学校は廃校にしておりません。野島で勉強をしたいという子どもがいれば受け入れるということで、茜島シーサイドスクール事業を立ち上げ、少人数ではありますが、野島以外からの子どもたちが通って、野島小中学校は運営されております。

私は、富海もこのままでは大変だという危機感を持っています。子どもの数は、私たちが子どものあるころから比べれば8割、9割減で、小学生は昭和29年に595人だったのが、平成28年に61人まで減少し平成29年は64人です。中学生は昭和29年に259人だったものが平成26年には22人まで減少し、平成29年は若干増加して44人になっています。これなども、教育委員会が英語教育と同時に、子どもたちの学力向上のために懸命の努力をいただいたおかげであり、富海の学力はかなり高いレベルにあるということ、皆さん認識してきつつあります。

そういう中から、平成27年だったと思うのですが、私は、文科省の教育再生実行会議のメンバーとして、第6次提言をさせていただき委員に就任し「地方創生は教育から」というタイトルで議論したわけですが、その折に、私は富海の例を挙げまして、三世代同居住宅に取り組むんだという強い意思表示もいたしましたし、現に取り組んでいることなどについて、内閣府でいろいろ説明をしてきました。

今、この取り組みは、全国から注目されている取り組みであると思っています。しっかり取り組んで成功していきたいと思っているのですが、今のところ、徐々にではありますが、その成果が上がってきているのではないかと、自分なりに思っておりますし、この動きを加速していかねばならないとも思っています。このことが、教育委員会が盛んに取り組んでおられるコミュニティ・スクールというものから、スクール・コミュニティへといった、コミュニティ・スクールがさらに進化して、学校が地域を支える、こういうようなことにもつながっていくのではないかと考えています。

地域おこし協力隊がプロモーションビデオに出ていましたが、彼らは慣れない土地に来て、そこに住んで地域おこしに全力を挙げてくれているわけでありまして、私は富海の人たちに、富海の人たちがしっかりと取り組んでいかないと、どこかが何かをしてくれるよというようなことではだめだということをよく話しています。

若干の補足をしましたが、ただいまの説明の中から、御意見や御質問あるいは今後、富海小・

中学校の児童生徒数を更に増加するために、どのような取り組みを実施すべきであるかなど、御意見を頂戴できれば、大変ありがたいと考えているところであります。

それでは、順次、御発言をお願いいたします。

- 委員長 先ほど三世代住宅をつくるといわれましたが、部屋数や居住面積というのはどのようになっていますか。
- 建築課長 これについては、6月市議会に建設費の補正予算を計上しておりまして、御承認いただきましたら平面計画をお出しするように考えております。
- 市長 要するに、三世代は、おじいちゃん、おばあちゃんの世代とお父さん、お母さんと子どもたちが生活できるようなイメージです。駐車場も3台程度確保し、家賃も一般のまちなかの住宅よりも少しは安いというような設定です。市営住宅ではありませんから、所得の高い人たちは入れないなどといった制約のない、家賃が払えれば住める、しかも、子どもたちを抱えている世代、そういう方に入っていただくという計画です。
- 委員長 子供たちというのは幼稚園児、小学生、中学生ですか。
- 市長 隣に保育園もあり、そのようなイメージです。
- 委員長 学校教育課と建築課、そして地域おこしを行うところは、今までどのような連携をしてこられたのですか。
- 市長 建築課から説明してください。
- 建築課長 建築課といたしましては、まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付けとしまして、ハード面からの支援ということで、今回は、三世代住宅建設を一つの支援として、協議させていただいております。
- 委員長 3つの課が集まって会議をされるということはよくあるのですか。
- 建築課長 相互連携といたしまして、担当課と一緒に協議させていただきました。
- 委員長 まち・ひと・しごと創生総合戦略ということで、建築課が中心となっているのですか。
- 建築課長 ハード面の整備は建築課が行うということです。
- 委員長 基本的には、先ほどから、ふるさとづくりなどいろいろなことをおっしゃっていますが、要するに、子供の心に残って、本当に帰りたくなるふるさとづくりが必要ということだと思えます。一過性のものではなく、どこに行っても続けられるものなのか、ここでだけしかできないのか、定住させるように持っていくのかなど、いろいろなことを考えておかなければいけないと思えます。富海小学校の生徒が中学校に入るときに、よその中学校に行ってしまうというような問題もあるということもあると聞きます。

三世代住宅も結構ですし、いろいろ実施されることはいいと思いますが、本当の意味で定住させるには、子どもたちが、私たちはここに住み、大きくなって子供を育てていくというふるさと力

を持つことが必要だと思います。家庭教育、学校教育、社会教育、全て合わせて地方創生という形はいいと思いますが、実際に実行されるときに、本当に未来のことを考えてやっているのかどうか疑問です。

○市長 その辺りについて、総合政策課から考え方をしっかり述べてください。

○総合政策課長 今、委員からありましたように、いろいろな部署が絡んで、この地域っていいな、この地域に暮らしたいなというのをつくっていくということになりますが、そのときはやはり旗振り役が必要です。そこで今、市長から紹介がありましたように、総合政策課がプロジェクトマネジメントの手法で地域再生計画をつくり、国に認定をいただいたうえで、この計画に基づきこの土地はいいなということになるよう、いろいろな部署の事業を組み合わせで作っていくということを新たに始めております。今までの行政の手法とは違い、教育、産業を含め、いろいろな組み合わせで、この土地がいいなというのを作っていきます。究極の目標は、やはり人口増ですので、総合政策課が旗を振っていくということの中長期計画で行っていきたいと思っています。

○委員長 平成27年の10月から5箇年計画がスタートしたとのことですが、今年でもう2年が終わるわけです。今度は、その後の10箇年の計画をたてて実行する必要があるのではないのでしょうか。せっかく家が建って、人が入ってきたとしても、やはりこのまちはあまりおもしろくないなと思って出て行ってしまうと何にもなりませんから、スタートするときにしっかりと各部署が集まって協議する必要があるのではないかと思います。

教育委員会から見ると、富海小中学校の一貫教育を中心にいつも考えてしまうので、とても良い事をやっているのだと感じます。しかしそれが、これから10年後、今のように人がどんどん増えていくとか、生徒が増えていくという結果になるのかどうか。そのときに、大事なのが子どもたちに植えつけるふるさとや、そういうものではないかと思います。しかも、親もその気にならなければなりませんし、先生方もまたその地域に住んでいらっしゃる方も一体感を持って取り組まなければいけない。地域おこし協力隊というのがあるようですが、せっかくここで人づくりをやっているのだから、基礎固めをしてやらないと、絵に描いた餅になっていくのではないかなというような気がします。

○市長 確かに、私もおっしゃるとおりだと思います。

現在、住宅を建てて、そこに住んで、その目の前にある学校に通うという仕掛けを行っています。それと同時に全国的に話題となっている空き家対策の観点からも政策を行っていかねばいけない中で、総合政策課は今、どのように取組を実施していますか。

○総合政策課主幹 地域資源を生かした活性化というところで、平成28年度に事業戦略というのを構築したところでございます。この事業戦略の中の一つに、藍染めの製造販売とともに、富海にある空き家を活用して、富海に住んで協力したいという若い世代を呼び込めるような、空き家

を活用した事業というのを長期的なスパンで考えていますので、もう少し長い目で見ていただければと思っています。

- 市長 富海に空き家を所有している方との相談をしているなど現実的な動きがありますか。
- 市民活動推進課長 平成28年度の事業の中で、マーケティングの調査といたしまして、地域の方にその空き家の現状をお尋ねするなど、そういったことをやっております。

また、地域の方と一緒に兵庫県にある空き家をリノベーションして、宿泊ができるようなところを視察しました。そこは、いろいろ法人化をして取り組んでいらっしゃるのです。そのようなことも勉強してまいっております。このように、現実的に取り組めていけそうな道を、今、探りながら進めているところでございます。

- 委員長 防府市の観光協会では、春夏秋冬、どこかにきれいな花が咲いている、そういうところに来てくださいという四季の花構想を観光事業の一環としてやっていますが、富海には海水浴場があります。また琴音の滝、山もすぐそばにあるということもあります。いろいろな意味で、その地域資源を利用したものも出していかないといけないのではないのでしょうか。よその土地の人から見たらすごいなと思うようなシーンがきっとあると思うので、そういうものも上手に使って、ふるさとづくりというのを邁進していかれたほうがいいのではないかと思います。
- 清水委員 小中一貫教育の推進で英語教育の充実と書いてありますが、現在外国語の指導助手は何人いらっしゃいますか。

- 学校教育課長 富海に常駐しているのは1人です。モンロー出身の者でございます。

- 市長 富海に住んでいらっしゃるのですか。

- 学校教育課長 富海在住です。富海では、1年生から4年生までは英語の授業が週1時間なので合計4時間、5・6年生は、週2時間の授業をしていますから、これも合計4時間。中学生は、通常の学校は4時間ですが、富海は5時間やっていますから15時間、合わせて週23時間の授業が行われています。

1週間は29時間ありますので、その全部に入ることが可能ということで、1人が富海に常駐をして授業に入っておりますし、授業だけではなく、それ以外の触れ合いもしております。2人いらっしゃれば、もっといいと思いますが。

- 清水委員 英語教育に関する先生がもっと増えれば英語教育が充実していると言えるのではないのでしょうか。また、英語だけに限らず多言語を取り入れた教育があっても良いのではないかと思います。

- 学校教育課長 富海は小学校1年生から外国語活動を行っているため、小規模特認校の制度を利用し途中から就学した子どもとはギャップがあります。それについて、市単独で小中連携の英語の免許を持った先生を指導員として雇用し個別の指導を授業に入れることにより、そのフォロー

もできる体制にはしております。

○教育長 公民館に社会教育指導員というのがおります。富海の社会教育指導員には、教頭OBで、英語の免許を持ち、英語でのコミュニケーション能力を有する者を配置することにより、富海の英語教育に関して、協力する意味合いを持たせています。

○村田委員 藍染めによる地域おこしと、富海の教育を推進するということは、具体的にはどのように関わってくるのでしょうか。

○総合政策課主幹 例えば、藍を中心とした産業化が起こって、藍染めに携わる人材が土曜授業などに関わり、学校教育にさらに魅力を付加していく。また、学校教育のほうでは、ALTの方がいらっしゃいますので、富海の藍製品というのを海外に発信していただくことや、富海を訪れる外国人の方を呼び込んでいただくことができるのではないかと。また、これをさらに深めていくことが大事ではないかなと考えております。

○村田委員 先ほど委員長がおっしゃったように、その学校に行く子供たちが、その地域に誇りを持ち、藍染めというものが、本当にその地域に根差した産業として自慢できるもの、日本だけではなく、世界にも発信できるような、そういうものに育っていけば、恐らく、教育と連携してくると思うのですが、防府市民でもこの藍染めのことをきちんと知っている人は少ないと思います。我々もその藍染めを目にする機会すらありません。余り市内で大切にされていない、余り啓蒙されていないような印象があります。

ですから、この地域で興すというのは、地元の人たちはよく知っているのかもしれませんが、そういった理解を子どもたちにしっかりと持たせないと、連携という意味では、ちょっと難しいような気がします。

それから、もう一つ、藍染めを地域産業として興すということですが、そういった産業をきちっとした形で大規模にしていって、将来的にここに住む人たちの就職先にするなど、そういったことまで考えているのでしょうか。

○市民活動推進課長 現在富海で行っている藍染めにつきましては、天然の材料を使って行っていますので、その大量生産というのは大変難しいと考えています。ただ、天然のものを使っていることで海外に向けた付加価値をつけて売り出していくというのは、一つの方法としてあるのではないかと。ということで、そういったことでの売り込みについても、平成29年度に進めていこうと。ということで考えています。

一度に大きな工場ができて、大量の人を雇用するということは考えておりませんが、例えば、地域にお住まいの方を雇用することなどは可能ではないかと思っています。

また、今年度法人を立ち上げる予定ですが、それは藍一本ではなくて、先ほどの空き家の関係など、いろいろな事業展開ができないかということでも進めていくことを考えています。一つの

ツールとして、藍染めの郷ということを生かしていければ、外からの人も呼び込むことができ、それによって雇用も生まれていくのではないかと考えております。

○市長 先ほどの映像で、休耕田を利用してすくもづくりを行うという話がありましたが、あれは幾らかお支払いをしているのですか。

○市民活動推進課長 休耕田の所有者に対してですか。

○市長 休耕田の所有者に対して、幾らかお支払いしていますか。また数名の方がスコップを持っていろいろやっておられる姿が見えましたが、その方たちはボランティアですか。

○市民活動推進課長 所有者にお支払はしていません。また基本的には、手伝いの人はボランティアです。

○市長 ボランティアというのは限界があると思います。

○市民活動推進課長 ですから、法人化するというのも、一つは、そういった方に産業として回れば、賃金を払っていただけるのではないかとこのところも視野に入れて進めているところでございます。

○市長 しかし先ほどの説明では、産業としては、なかなかやっちはいけないから、ほかのことも一緒に絡めてやっっていかなければいけないということだったので、矛盾するのではないですか。

○市民活動推進課長 確かに、大きな儲けではありませんが、例えば、そのすくもについて、いい製品ができれば、将来的に販売していただける可能性もありますし、藍製品が売れていけば、それも販売していただける可能性があります。今はまだ、産業として賃金が払えるところまではいきませんが、ボランティアというのは、市長もおっしゃったとおり、限界があると考えております。ですから、賃金が払えるような体系にしていきたいということで、進めているところです。

○市長 今はNPOでやっているのですか。

○市民活動推進課長 まだそこまでいっていません。

○市長 まちおこし会社とかというところまでも、まだいってないのですね。

○市民活動推進課長 平成29年度に一般社団法人ができれば良いということです。

○教育長 この藍染めに関しては、先ほど村田委員がおっしゃいましたが、市民の方でも知らないというようなところがあります。今年、飴村先生が現代工芸美術展で内閣総理大臣賞を受賞されましたのでこれをもっと市民の方に知っていただく、そして、同時に藍製品というものを知っていただくためのきっかけづくりをしていただきたいと思います。教育の面からいえば、子どもたちはわからないなりに、藍染めに携わり、そういうすばらしい人が身近にいるということを知っていけば、将来、藍染めをやってみたいとか、ふるさとでこういうものをつくったな、こういうものに関わったなということで、誇りを持って、また将来、本当にふるさとを思う気持ちも出てくるのではないかと思います。

それから中学校にも、飴村先生の作品が飾ってありますがあまり知られていません。そういうことを、子どもは本当に反省しもう一度子どもたちに活動の場やそれを知る場をつくっていきたいと思います。

○市長 今月の終わりに、飴村先生のお祝い会がありますので、今日の総合教育会議で、村田先生のほうから、もっと市民にPR、周知していくことをしたらどうかとか、具体的な御提案があったことを伝え、飴村先生の御協力もいただいて、個展を行う。また可能かどうかわかりませんが、小学校の何年生かが、地域おこし協力隊の皆さんが頑張っている現場を見学に行くような形をとるなどして、周知をしていくようなことを行う。中学校などはクラブ活動（藍染染色クラブのような）を行い、そこに地域おこし協力隊が教えに行けるようにするなど、考える余地はあります。

○鈴木委員 富海中学校にある飴村先生の、八崎岬から広い海原を望む構図の作品は、富海中の生徒のために、先生が何年もかけて想を練り、世界に向けて大志を抱くような子どもになって欲しいという願いを込めて制作され、長州ファイブのレプリカまで添えて、寄贈して下さったものです。子どもたちに、飴村先生のそういう熱い思いを語って頂くような場をつくっていただけるとよいと思います。

○委員長 英語教育については今のところ特認校として富海が突出しているわけですので小学生のころから英検を取っていくような取組を行うと良いと思います。恐らく、あと5年以内にこれを達成させると、富海の名前というのは表に出ると思います。それを越えると今度は、どこも英語教育が同じようにされていくため、余り表に出てこなくなる。今のうちに早く実行に移しておくほうが良いと思います。

○鈴木委員 4年後には、大学入試センター試験が全面改革され、その1つに実施科目から「英語」をなくし、その代替に英検等の資格を使うことが検討されているようですが、富海の子どもたちは、中学校を卒業するまでに、全員が英検3級程度に合格しているなど、目に見える成果があると、英語特区としてのアピール力もあるのではないのでしょうか。また、少人数によるきめ細かい指導で、学力も市内でトップクラスだということですが、学力の保障ということは、小規模校の特色ある取組として最も評価されることだと思います。一方で、部活動などで少人数のために難しい種目や、閉鎖的な人間関係などのリスクもあるかもしれませんので、そこはまた子どもたちの思いに向き合いながら、しっかりと考えていかなければいけないと思います。

○市長 今日の議題の富海ブルーと英語教育という2つの切り口の中で、それぞれ課題が見えてきたように思います。

まず、富海ブルーと言えば、藍染めのPR、これをどういうふうに周知徹底させていくかということ、英語教育で言えば、富海中において英語教育の目に見える成果をどういう形でつくっていくかということです。

では、総合政策課から、藍染めのPRをどのようにしていくか説明してください。

○総合政策課長 総合政策課からですが、先般からちょっとPRが弱いということがあり、市長にも相談しまして、PR、それからプロモーションをやっていこうということで、今まさにその仕掛けをどのように世間に知らせていくかというシティプロモーションの仕組みを副市長を中心に考えている最中でございます。ソーシャルネットを使うようになるかもしれませんが8月、9月ぐらいには、何らかの形で防府市中、それから全国、それから世界に向けて、藍染めの藍が発信できるような仕組みを考えようということを鋭意努力している最中でございます。

○市長 学校教育課のほうではどうですか。富海中における英語教育について目に見える成果を出していただけますか。

○学校教育課長 平成27年度から、他の学校では英語の授業について4時間のところを富海中は5時間やりました。そのときは、4時間でやる内容を5時間かけてやる状況でした。深くはなりませんが、それで本当にいいかということで、昨年度、小1からのカリキュラムの見直しを考える中で、5時間を、4時間プラス1時間でやっていったらどうだろうという意見がありました。そのプラス1時間については、先ほどお話がありました英検、そういう資格を取るための勉強をそこでやっていくなど今検討している最中です。具体的な数字は出ておりませんので、先ほどいただいたように、例えば、英検の取得率が極めて高いというような結果が残せる形になるように進めていきたいと思っております。

○市長 そのためには、課題は何ですか。例えば、先生が圧倒的に不足しているとか、機材が足りないとか、何かありませんか。何もなくて大丈夫ですか。

○学校教育課長 去年その英語検定を受ける検定料を補助するようなことはできないかという話が出ましたが、それは個人が取る資格ですから、公的なお金を使うのはおかしいのではないかと思います。う話にもなりました。ですから課題ではなく、やるかどうかいうところかと思っています。

○市長 熱意ということですか。

○学校教育課長 はい。情熱だと思います。

○市長 そうですね。4時間が5時間になったくらいでは増えたうちには入りません。4時間から5時間プラスされたというのなら、増えたなあと感じますが。

○学校教育課長 学習指導要領にならって、今は、総合的な学習の時間を1時間英語に変えています。小中一貫教育校になったときには、もう少し柔軟なカリキュラムが組めるのではないかと思います。協議会をこの6月から立ち上げてそこを研究しようということにしています。

富海だけ週に英語を10時間行うというのはやはり難しいかなと思います。

○教育長 ALTが常駐しているということで、学校生活の中でコミュニケーションもできますので、そうしたところで子供たちの英語力をつけていきたいと思っています。ただ、1人ですと、

どうしてもその人とのコミュニケーションしかできませんので、富海の子供たちにとっては、複数のALTと交流をすることが大事なかなとも思います。そうしたところで成果が上がれば、また市のほうで他の学校におきまして、複数のALTを設置するということになっていくのではないかと思います。

○鈴木委員 松崎小が実施しているわくわく教室や、華浦小、大道小が実施している地域の学習支援教室などのような制度は富海にありますか。

○学校教育課長 今現在それは聞いていません。今、富海校区以外から16人の子どもが通っていますが、その子どもたちは、基本的に電車やバスで通いますので、時間的な制約もあるのではないかと思います。

○市長 土曜授業のときには、その子どもたちもちろん参加しているのでしょうか。

○学校教育課長 もちろん参加します。その保護者はPTA活動にも参加します。

○市長 私の思いつきですが、生徒や保護者や先生方の御理解をいただきながら特認校として土曜授業をもう1日行う。そしてその部分については、英語が得意な方が自主的に参加して授業を行うなど、何か方法を考えたら、お互いのトレーニングになると思います。

○教育長 人を集めるということに関して言えば、やはり施設や環境も影響します。去年、サマーキャンプのとき、一つネックになったのが暑さでした。ですから特認校としてエアコンを入れていただければ良いと思います。

○市長 今回立派な向島公民館ができました。そしてすぐ隣が向島小学校です。ですから、地域の方々の御理解をいただきながら、学校教育の場としても使えるようにしなければいけないということを、昨日市長メッセージの原稿に書きました。あそこは、クーラーもシャワーもあり、広い部屋が2部屋あります。それから畳の部屋もありますので、そこで茶道や華道の稽古も可能で、使い方によってはその1部屋を、畳をひいて何かの稽古に使うなど、そういうのも大事な教育活動になるわけです。

きょうは、富海の話でしたが、私がいつも申し上げているように、向島小をこのまま放置していれば廃校になります。今は複式学級ですからなるべく早く複式学級から脱皮できるように、英語教育なのか、国語教育なのかはまた別として、それぞれの特色を持ってやるようにしていくといいのではないかと、こんなふうにも思います。

○村田委員 英語教育を行う上で重要なのは、何のために英語を話すのか、英語を勉強するのかという、そういう動機づけや目標ではないかと思います。そういったことは学校ではどのように捉えていらっしゃるのでしょうか。

○学校教育課長 コミュニケーションツールの一つという捉え方もあります。

○村田委員 勉強する子供たちがその意義をきちっと理解しているかどうかというのも一つ大切な

ことだろうと思います。教科書を読めばわかりますが、中学校の英語はかなりレベルが高いと思います。あれがきちんとできれば、日常会話は全く困らないぐらいのレベルですので、どういう目的があるのかというのを理解していないと、その先には行けません。その辺りはどうでしょうか。

○教育長 まさに今、村田委員が言われましたが、小中一貫教育、さらにその先に、高校、そしてもっと先に、将来、どういう目的で英語を勉強するかということがあるかだと思います。

きちっと追跡してはいないのですが、大学も外国語学部に進学したという子どもが富海から出ているということは聞いています。今後、そうした追跡調査を含めまして、そうした目的にかなった指導がなされているか、さらには、そういう目的を子どもたちが持って、志を立てて向かっていっているかという、そういうことを大切にしながら取り組みたいと思っています。

○市長 今、モンロー市に交換留学生として高校生が行っていますが、そこに富海中の生徒を特別枠で1人、2人差し込むようにすれば、さらに目的意識が出て、やりがいもあると思います。もちろん希望者で、希望者が多かったら選抜試験になりますが、そういうようなことも考えないといけないのかもしれませんが。あれは、ロータリークラブさんが、御協力くださってできている制度ですのであちらとしては大歓迎だと思います。

○教育長 萩市は、サマーカレッジと言うことで、中学生が大学に行って勉強しています。

○市長 子どもの方が飲み込みも早いでしょう。

○教育長 私は社会科が専門ですが、祝島に赴任したとき、英語を指導することになりました。中1の子どもに指導する中で、ALTが来て話しをする場面で、私はわからなかったのですが中1の子どもは英語を全く勉強していないのに、私が相手をしますと言って私のかわりに話しをしてくれました。本当に子どもは順応力があると感じました。

○市長 今、議題である藍染めについては、担当課のほうから8月、9月ぐらいを目処に、ある程度のプレゼンができるところまで頑張ってみたいということですが、地域の人たちを引きずり込まないとだめですよ。やはり地域の方々の協力と理解がないと、市民に理解を深めていくというのは、なかなか難しいと思います。

それから、英語教育については、目に見える成果を出すということで、大きい課題がありますので、いろいろ考えたほうがいいのではないのでしょうか。

それで、問題の移住定住ということについて、特色が出て、成果はあるけど、住んでいる人はどんどん減ったということになれば、何にもなりません。移住定住という観点からは、担当の総合政策のほうでは、これからどのような仕掛けを考えているのですか。

○総合政策課主幹 それぞれの取組を総合的に組み合わせて、先ほど課長も申しましたように、対外的に、市内、対外的にもこの富海のモデル的な取り組みをしっかりとPRしていくことにしてい

ます。プラス、それぞれの担当課の取り組みをさらに特色あるものにし、これを合わせることで、富海の魅力を高めて、人を呼び込み、通ってくるだけではなく、富海に住んで子どもを通わせたいと思う若い世代を呼び込んでいくことが非常に重要になってくると考えております。

○総合政策課長 補足になりますが、UターンJターンIターン関係のプロモーションを今やっております。東京、大阪、福岡に出かけて、アピールしております。その中で、空き家バンクの説明もするのですが、それに付加して三世代住宅がありますよということ、それから、職業あつせんも、NPOの友志会というところに委託しておりますので、仕事を探していらっしゃる方の伴走もできますと、そういう方の御相談を受けたときに、こういったものがあります、おじいさん、おばあさんもお迎えになられて、防府に住まれてはいかがでしょうかとというアピールをしっかりとやっていきたいと考えています。

○市長 それから、建築課のほうも、6月議会で一定の目処がついたら、直ちに、富海駅や海水浴場の周りなどで三世代同居住宅のPRをしてください。

○建築課長 完成イメージ図をつくりましてPRしていきたいと考えています。

○市長 そのとき、富海駅の横のトイレ、海水浴場のトイレをきれいにすることも併せて、富海が日に日に変わりつつあるという期待感を見せるような、目に見えるようなPRをしてください。

それから、空き家住宅の問題も、いつまでも調査では進まないの、対策を進めないといけない。富海から始めるという形でもいいから、特化して、スピードアップできるように考えていただきたいと思います。

○教育長 教育からちょっと離れますが、富海の地の利を活用することと、もう一つ、富海は市街地よりも2度程度気温が高いと感じます。夏は海風が吹くから涼しいので、そうしたところをしっかりとPRの中に入れて都会に発信すれば、住みたくなるのではないのでしょうか。

○委員長 子どもの笑顔輝く、住んでよし訪れてよしの富海地域の創造ということで、四季折々を見ても、例えば、海、例えば、山、どんなところを見ても、魅力あるものがたくさんあると思います。だから、それをもっとPRをしなければならないと思います。

どうしたら魅力ある富海地区になるのかということ、スピードを持って検討してほしいです。

○市長 勉強ばかり、英語ばかりではなく、スポーツも特化するような、そういういい先生を連れてくるとか、何か考えてください。

○教育長 特化というより、逆に、総合スポーツ型、子どもたちがやりたいこと、いろいろな競技ができるような、スポーツ嫌いがスポーツできるようになるよという、そういう形もあわせて考えさせてください。

○市長 ただ、いきなり、各学年30人ずつぐらいいるということにはなりませんから、野球チームを作るといってもなかなか難しいかもわかりません。だから、山口県より外からでもきてもら

うことを考えることも必要かもしれません。

○教育長 地元の子を生かせるような教育も大事だと思います。

○市長 では以上で今日の協議を終了したいと思います。後は事務局にお願いいたします。

○教育部長 ありがとうございました。

それでは、お手元の次第の4、その他ですけれども、皆様、何かございませんでしょうか。他になければ、以上で平成29年度第1回防府市総合教育会議を終了いたします。皆様、お疲れさまでした。

午後3時25分閉会